



# ポン・ヌフ・ダンス

幸地 学の世界

☆3

これほど空間が広くとられた作品はめずらしい。以前の作品は画面いっぱいになっている。ろな形のもの描かれ、ものが充満していた。パワ-が飛び散り、饒舌じようぜつ)でカラフルな作品が多かった。

## 新たな価値空間を構築

しかし、一九九四年ごろから、幸地はイメージのなかから生まれた形あるものたちに、より確かな存在理由を問い掛け、確かなことばを選び与えるようになる。また「種」や「質」、「形」の異なるものたちの必然的な関係性を探り、さらに次元を重層化したハイブリッ

ドな世界を創出していったのである。形あるものたちは、より一層強烈な個性を放つ存在となった。洗練され、温かみを帯び、独特なフオルムと色彩を有し、これ以上は無いのではない。それは同時に、現実社会の構造や矛盾、さらにはあらゆる角を漂流している。それはあたたかも地上数万キの無重力の空から

度から現象世界を考察していくに等しい。そもそも幸地芸術のリアリティはそこにあると思われる。

### 「詩」

(1996年)

沖縄タイムス創刊五十周年特別企画「幸地学展」は、二十五日まで、那覇市民ギャラリー(パレットくもじ六階)で開かれています。

現代の地上絵を観(み)るように…。

画廊沖縄代表 上原誠